

やまえへ通信

東海道筋・山中・猪鼻 ならでは

「結」の魂から「絆」の再生へ 里山の原風景懐かしむ

平成29年3月18日 甲賀市土山町黒川にあるダイヤモンド滋賀ホテルにて、山内の古老たちや学生たちが絵師となり取り組んだふるさと絵屏風原画の御披露目会を行いました。地元の人たちだけでなく、「自分たちの地域でも取り組みたい」と他所からも140人の人が集まり、久しぶりのコンサートで盛り上がりました。



山中の「今だから言える」を
饒舌に語る服部さん



すずか姫

山中・猪鼻地区から絵解きの登壇は、小林善一郎さん、小林栄一さん、服部長夫さんでした。山中は、平成28年11月からの開始で、雪の多かったこの冬には1ヶ月月間、公民館で絵描き作業をしてくださいました。お話の中では東海道にまつわる話で盛り上がりました。

「伊勢に向かう先人達が鈴鹿峠を越える時に常夜灯となったといわれる方人講」「荒行いり今も続く熊野神社」「お参りされる若宮神社の鳥居」「十楽寺」「甲賀町・いちゅう野にぬける観音道」等神社仏閣・道にまつわる話から始まりました。東海道をなん匹もの牛を引き連れて歩く博労(ばくろう)がいたよかったです。そして、ちょうど、長い山中の真ん中に位置するのが一本松(こへし)です。戦後の進駐軍(アメリカ兵)たちがジープを止めて休憩した場所でもありました。チョコレートや缶詰を持っていくので、「カモン」と言われると、ふだんオケス、イタドリ

しか食べていないお腹をすかせた子どもたちは、恐る恐るハイカラなお菓子を貰いに行ったとのことでした。黒川・山内小学校に抜けるには、スリウス道を使いました。戦時中は、防空警報が鳴ると防空頭巾をかぶってスリウス坂を駆け上がったそうです。「カバンは放っておいで勉強はせんかったなあ」「スリウス道にはたくさん松茸がとれた」「川ではみんなが素っ裸で泳いだ」「牛の種付けを子どもながらうしろろろろろと見に行こうとしたら怒られた」等、今だから言える話も噴出しました。山中の絵には、「炭焼仕事」「山の神行い」「萱ふき変え」の他、子どもの遊びや火の用心等も所狭しと描かれていました。製作過程では、三人の地元絵師さんたちが思い出話を花を咲かせながら一つ一つ丁寧に描かれたとのことでした。

猪鼻地区の絵屏風製作は、高校生五人が中心に行いました。土地感のない地元の高校生でしたが、何度も山内に訪れ、地元の方々から話を聞きました。特に女性が「洗濯」「子守り」「自宅での出産」「畑仕事」、山内小学校まで歩いてきた

小学生の様子や子どもたちの遊びが、現代風にかわいらしく描写されています。絵解きでは、土山歴史民俗資料館の駒井学芸員より、山中から西に続く東海道の坂と坂に挟まれる猪鼻地区、旅の休憩所としての名残である屋号を持つ家、明治天皇が休憩されたとされる場所に残る石碑の説明がありました。

山中地区からの境には、「コワメシ坂」と言われる坂があり、そこは東海道を歩く旅人たちのために赤飯(コワメシ)を売っていたこと、大きな茶畑があり、猪鼻の女性陣が茶畑で休憩している貴重な写真(昭和初期)を用いた。絵解きの二つ目のストーリーは、黒川地区でした。川西、黒川市場、中の組上の平の四つの字(区)が集まる大字です。大宮神社の氏子であるこ

とがつながりですが、基本となる小さな字ことの決めごとは今も残っています。そんな黒川の描写は、苦勞でした。絵解きは、山内の古老代表の野尻清さん、全面的に進めて下さった落合道夫さん、女性陣として、馬場ツタエさん、鈴木千恵子さんに登壇してもらいました。

黒川は、流れる野洲川を意識した地名もありです。中心は、実には「中の組」であり、そこから西にあるのが、「川西」、上の方にあるのが、「上の平」。黒川市場は、お店が立ち並んでいたようです。

野尻清さんからは、千谷から黒川市場にあった店を覚えてもらいました。「ひだちや」「わた

まん」「油屋」「料理や」「せんまっさん」「床屋」「せんものや」「大工」「醤油や」「材木や」「こめしん」「呉服屋」と、五十軒ほどの集落の三分の二が商売をしていたようです。これは、黒川が伊勢(三重)から山越えて田村神社に行く道中であつたことから、ひろい仕事のような商売が昭和初期まで残っていたとのことでした。

描画いただいた落合さんからは、「心をこめて描いた場所、伝えたい事」の紹介がありました。「大宮神社の大鼓踊り」「木造校舎であつた山内小学校」「小学校で行われた運動会や盆踊り」会場からは、懐かしうなずく様子が見受けられました。また、「小学校の隣に『勝負山』という場所があり、そこでは、他所からこられる役者たちが芸をするので、みんな観劇に集まった」「劇場はムシロを囲って作った即席で歌舞伎役者を見た」「七夕の時に河原で子どもたちだけで火を燃やした七夕焼き」絵の説明の中で、子どもの社会には親は見守り子どもたちには任せられた話が出ました。そして、黒川地区は入り組んでおり、描写には大変苦勞いただきました。御披露目コンサートには間に合わないかと思いましたが、学生さんや子どもたちが来てくれ追いつきかけてくれた。「気になつて寝られなかったこともあり大変だったけど絵に描かれて良かった」と安堵の様子で話されました。

馬場ツタエさんからは、「子どもの頃に隠れて飲んだドロク」の話、鈴木千恵子さんからは、「近所から近所に嫁いだので、いまだに知らない山内を八〇歳になつてからも夫婦でドライブに行つ

みなさん、こんにちは。先日は、楽しいお披露目コンサートでしたね。昔のお話を聞きながら、うんうんとうなずいて、そうだったよねと懐かしい思い出に浸っていた方もたくさんいらっしゃいました。ふるさと「絵屏風作り」は認知症予防に良い」という発言を、最後にさせていただきましたが、そのことを少し詳しくお話しします。

で、記憶機能を活性化させるのです。また地域回想法というものもあり、個人的記憶だけでなく、地域の生活様式や暮らしをみんなで思い出することで、残しさらに健康的な生活、適正体重維持、禁煙、うつ病、糖尿病、高脂血症、高血圧などの治療と続きます。絵屏風作りはまさに、りっぱな社会交流と知的活動に相当します。ただ、お家で思い出にふけるのではなく、公民館にお出かけいただく、絵筆を使っていたことで、さらに効果は上がります。

健康づくりの基本は、良い食生活、適度な運動、さらに睡眠と休養をとることですが、ここに良い人間関係を加えることで、さらに健康度は増します。明るい家庭、助け合う絆の強い地域社会を作ることが、個人的な健康にも大きな影響を与えます。

山内地域のふるさと絵屏風活動が皆さんの健康に良いものになることを信じています。ではみなさん、お元気で。

【松阪からの手紙】(三重県 二元保健所長)

「伝えておきたくて描いた場所」について語る
黒川地域の落合さん

「結」の魂から「絆」の再生へ
里山の原風景懐かしむ

「結」の魂から「絆」の再生へ
里山の原風景懐かしむ

「結」の魂から「絆」の再生へ
里山の原風景懐かしむ

小学校が閉校となるこの時期、みんなで校歌を歌ったのは感動だった。年に一度は集まって「山内小学校の校歌」をまた歌いたい。



ハンドベル フランシースと 高校生のトーンチャイムのコラボ



高校生が描いた猪鼻



できないだろうと思っていた3つの絵図ができたのは奇跡的。地域の力に圧倒された。



絵図を見ていると、ついつい懐かしくなる。他にも描いてほしいこともあるな〜。

なんと300パーツ以上の記憶絵



明日につなげる絵屏風 コンサート

エコクラブの元メンバーとしてお手伝いした。みんなに会えてうれしかった。



フルート・バイオリン・ピアノのアンプابل 卒業記念の良い機会になりました。



最強タッグ 地元の絵師たち



山内小学校赴任の時山内の方々の温かさは今も残っているのかと思うと本当にうれしい。(日野町 若林憲秀)

絵筆から楽器に持ち替え 春を奏でた女子高校生

絵屏風製作にあたり、大きな力を山内で発揮してくれたのが、地元外からの女子高校生でした。4人の学生たちが雪の多い今年の冬に10回程度猪鼻の絵図製作に協力してくれました。という彼女たちの本分は、3月まで音楽科高校生でありました。本コンサートのために学校でひそかに練習を重ね、おなじみの曲などを披露してくれました。

なかでも、山内小学校が3月末をもって閉校となることで、参加者とともに小学校へのお礼と感謝を込め『山内小学校校歌』を声高らかに歌いました。伴奏は、元祖山内エコクラブメンバー大畑菜美さんにも登場して頂きました。

また、地元の女性ハンドベルグループ フランシースがトーンチャイムの伴奏で「琵琶湖周航の歌」「見上げてごらん夜の星を」を奏でました。会場の皆さんもなじみの曲に口ずさみ和やかな時間を過ごしていただきました。

元高校生たちの感想を一部掲載します。

山内の地域の方々と12月末から一緒に絵を描かせてもらいました。自分の地域も昔も愛し大切にされてきたことがわかりました。短い期間でしたが、貴重な体験をさせていただき、地域の方々の温かさを知る機会になりました。松吉咲季(安土)

コンサートには、ヴァイオリンで参加しました。本番は楽しく演奏させてもらいました。会場の皆さんが、温かく見守ってくださりとても嬉しかったし、良いコンサートになったと思います。

絵屏風は、一つひとつ工夫されており、とても感動しました。ありがとうございました。前野夏音(水口)



仲よし6人ユニット アンジュ

友達のご縁で、山内での絵屏風のお手伝いをさせていただきました。山内に初めて来たときには自分の住んでいる草津とは比べ物にならない雪の多さに驚いたことが印象的でした。絵を描いている中で、地域の方々のつながりの大切さを感じる事が多々ありました。この経験を通じて、地元を大切にしたいと思いました。また山内にも遊びに来たいです。瀬川実来乃(草津)

絵屏風製作に参加させていただいて、地域の方々の絆の深さを感じました。建物の位置や数がすべて正確なことにはとても驚きましたし、「子どもの頃は、こんな遊びをしたな〜」と喋っておられるおじさま方が楽しそうだったのが印象的でした。コンサートでの演奏では、アンサンブルをするうえで大変なこともありましたが、それ以上に勉強になることもあり、いろいろ経験になりました。松村彩加(東近江)

絵屏風製作にアンサンブル。友達や地域の方々と素晴らしい時間を持つことができました。私の誇りのふるさと山内。18年間育てていただきありがとうございました。竜王みやび(黒川)

昔も今も変わらない少女の心 365日の紙飛行機

アンジュグループの演奏の中で、リクエストした曲があった。「365日の紙飛行機」だ。参加者は高齢者が大半のなか、みんなが口ずさんでくれたのには少し驚いた。アイドルが歌っていたこともありヒットした曲なのであるが、絵屏風製作をしている中でこの曲を思いついた。NHKの朝ドラで主題歌として使用されたが、そのドラマは明治・大正と女性が社会的に男女同権でない時代の少女(女性)の心を風刺したものだ。時代はもう少し下るが、本絵屏風の背景となっている昭和初期でも手での家事、水仕事、芝担ぎ、子守りをしなからの農作業、24時間365日休むことなく動き続ける女性たちの地位や発言権の低さや制約はさほど変わらなかっただろう。

そんな彼女たちにも「♪ずっと見ている夢はもうひとり自分が出て、やりたいことをできる夢」があっただろうし、ほんの小さな出来事や美味しいものに幸せと感じたのではないかと思いをさせる。

山内の中での通婚、「世間知らず」だと卑下するかもしれないが、人と人との関わりや助け合いの中で「笑い」や「和み」があっただろう。

歌詞の後半に「♪その距離を競うより、どう飛んだか、どこを飛んだのか それが一番大切なんだ」とある。失敗をしながらもささやかな幸せのなかで自分が自分らしく生きている(生きてきた)暮らし。ふるさと絵屏風にはそれが描かれていて、次世代に伝えていきたい大切なメッセージがある。

さあ、まっさらな一枚の紙を手にした少女たちよ。あなたたちには大きな壁や苦難が待ち受けるだろう。自信を持って試行錯誤しながら、紙飛行機を折ってほしい。♪折り方はわからなくても教えてくれる人がどこかにいるのだから。

絵屏風の製作者でもあったアンジュのみなさんに心から感謝と未来へのエールを送りたい。(R)